

「あなたの兄弟はどこにいますか」

創世記 第4章8節～16節  
ヨハネによる福音書 第15章12節～13節

説教 村上修平牧師

今朝は聖餐桌の上に燭台が置いてあり、蝋燭に灯りが灯されています。蝋燭の光がどこか温かく感じられるのは、この蝋燭の姿が、主イエスの言われた「愛」に似ているからだと思えます。蝋燭は自らを燃やしながらか光を放ちます。主イエスは、「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(15章13節)と言われました。そして、この御言葉のように、主イエスはご自分の命を燃やし尽くして、私たちを愛して下さいました。主は、疲れた者や希望を失っている者を温かく照らして下さいる光のようなお方です。

教会学校の夏期聖書学校が明日から明後日まで舞洲で行われます。また、先月はこひつじひろばのサマープログラムが行われ、たくさんの親子が教会を訪れました。子ども達のために、自分の時間や持てる力を捧げて奉仕して下さいる兄弟姉妹に心から感謝いたします。また、見えない所でもたくさんの方々子ども達の救いのために祈っておられる事と思えます。主は私たちの祈りに応えて下さると信じます。この夏期聖書学校を通して、自分が神様に愛されている大切な存在であることを子ども達が感じとってくれる事を期待しています。

今日は創世記の4章も読みました。ここには人類最初の殺人、しかも兄弟殺しの物語が記されています。アダムとエバの間に二人の息子が生まれました。兄カインは土を耕す者になり、弟アベルは羊を飼う者になりました。ある日、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物としました。アベルもまた、その群れの初子とよく肥えたものを持ってきました。主はアベルの供え物を顧みられましたが、カインの供え物は顧みられませんでした。なぜカインの供え物は顧みられなかったか、多くの人々が論じてきました。カインに不正があったからだとか道徳的な問題を指摘する者もいます。もちろん、そういう考え方もできると思いますが、しかし、カインは彼なりに一生懸命働き、その仕事の結果を主のみ前に持ってきたのではないのでしょうか。

ところが、主はカインの仕事よりもアベルの仕事を評価されました。理由は分かりません。とにかくカインの目にはそう映りました。私たちも日常生活の中で、自分や自分の仕事がいとも認められる訳ではないことを経験します。他

の人が誉められると、『なぜ、私ではなく、あの人が?』と不公平感を覚えることがあると思えます。そして、自分よりも評価されている相手を妬んだり憎んだりしてしまう、誰でもそういう弱さを持っています。

カインはアベルを憎み、その怒りに身を任せ彼を殺してしまいました。私たちは殺人まではしないでしょ。けれども、私たちがよくするのは相手の存在を無視する事です。カインはアベルの居場所を聞かれた時、「知りません。わたしが弟の番人でしょうか」(創世記4章9節)と冷たく答えたように、あの人は私とは関係がないと、自分の中から相手の存在を閉め出すのです。「あなたが土地を耕しても、土地は、もはやあなたのために実を結びません」(12節)この御言葉は、どんなに自分のために働いても、兄弟を無視する生き方は豊かな実を結ばない事を教えてくれます。兄弟を否定することは、結局、自分自身を否定することでもあります。

しかし、主はそれでもカインを見捨てようとはされませんでした。主はカインに、「弟アベルは、どこにいますか」(9節)と語りかけられました。アベルはあなたの弟ではないか、あなたにとって大事な存在ではないかと思ひ起こさせるように、わざわざ「弟アベル」と呼んでおられます。さらに、主はカインを見つめる者が彼を傷つけることのないように、カインに「一つのしるし」(15節)を付けました。これは、兄弟を殺したという罪の事実をカインに思ひ起こさせると共に、それでも主はカインを守られることを示す恵みの「しるし」となったのです。

主イエスは、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネによる福音書15章12節)と言われました。主は、兄弟姉妹を心から愛せない私たちの弱さを知っておられます。それでもなお、主はご自分の命を燃やし尽くして私達を愛されるのです。「あなたの兄弟がどこにいるか」と語りかけ、どんなに憎い人でも、私達にとってかけがえのない兄弟姉妹であることを思ひ起こさせて下さいます。主イエスの愛の光に照らされる時、私達自身も小さな光となって、周りの人々を明るく照らすことができるのです。

(記 村上修平)